

技能習得を『実感』できる授業改善

～生徒が自己の最善を尽くす取組を目指して～

東広島市立八本松中学校

全児童生徒数	432名 (男子221名 女子211名)
全クラス数	16クラス(特別支援級4クラス)
TEL	(082) 428-0202

1 課題と目的

昨年度、運動やスポーツを「する」ことが好きな生徒を増やすため「伝える力」の育成を柱として授業実践を行った。その結果、生徒の「する」ことに対する否定的な捉えはいくらか解消し「する」ことが好きな生徒が増加した。一方、授業後のアンケートから「する」ことが好きではあるが「知識・技能」の習得を実感している生徒は全体の5割程ということが分かった。

そこで、今年度は「できた」「できるようになった」を実感できる授業改善を行うことで技能の習得を目的とした研究を行うこととした。

2 主な取組の内容

(1) Task の設定

- ・球技「卓球」において、教師から難易度の異なる課題を提示する。その課題をグループで協力し、授業内での練習、撮影、提出を行い合格を目指す。



(2) 技能の段階に合わせた課題の設定

- ・器械運動「跳び箱運動」、武道「柔道」において、与えられた技の課題に生徒一人一人が「場」、「用具」、「練習方法」を選択し最終的に技の完成を目指す。



(3) 変容を実感できる機会の提供

- ・ICTを活用し、単元開始時と終了時の自身の動画を撮影し、それらを使い、まとめ、レポートを作成する。
- ・授業後、単元後には「できた」「できるようになった」の実感の有無、またどのような場面でそう感じたかなど自分自身を振り返る時間を設定する。



3 取組で工夫したところ

(1) 授業形態

- ・Taskに取り組む際に、生徒の能力差があることから技能差の少ないグループ(同一 Task 達成者)での練習時間と、技能差のあるグループ(各 Task 混合)での練習時間を設定し、役割やグループ内での目標を明確にできるよう工夫を行った。
- ・ICTを活用し、Task チャレンジ動画を撮影させ授業内での提出を行うことでその場で合否をオンライン上で返却し、生徒の意欲向上に向けた工夫を行った。

(2) 選択肢の提供、アイデアの受容

- ・技に取り組む際に、現在の技能から完成に向けて「場」「用具」「練習方法」を個々が選択・決定し、課題解決に向けた練習をしていけるよう工夫を行った。
- ・技の完成を撮影し提出する場面では、完成に至らずとも『現在の最大限』と称し現時点で出来る技に最も近い形での動画を提出させることで意欲向上に繋げられるよう工夫を行った。

(3) 場面想起による実感の振り返り

- ・「できた」「できるようになった」を授業終了後の自分の姿と前時の自分とを比較させ実感しやすいように工夫を行った。
- ・単元終了後にもアンケートを実施し、授業の時には気付くことができなかった「できた」「できるようになった」に気付くよう場面想起しやすい質問にするなどの工夫を行った。

4 成果と今後の課題

事後に行ったアンケートや振り返りから技能の習得に課題があった生徒も、授業改善を通して技能習得の実感を得たことが明らかになった。具体的には、単元終了後の「『できた』『できるようになった』を実感することができましたか」の問いに各単元とも8割以上の生徒が肯定的な回答であった。

最後に、今年度は技能の習得を実感できる授業改善を行ってきたが、生徒の実感と教師の評価とでは違いがある。今後は、生徒の実感だけではなく技能を習得し、試合等の中で活用することができるよう習得させることが課題となってくる。